

Princeton

USB2.0 オーディオキャプチャユニット

デジ造 PCA-ACUP

Digital Creation Gear Digizo

# 活用ガイド

本書では、本製品付属の音声編集ソフト『DigiOnSound5 LE.』を使用した音声の録音と『DigiOnSound5 LE.』の主な使い方をご紹介します。

## ！ 本書をお読みいただく前に

本書をお読みいただく前に、必ず「設定ガイド」に従ってドライバ（ソフトウェア）のインストールを行ってください。

また、DigiOnSound5 LE.に関する詳しい使用方法については、ソフトウェアの【ヘルプ】→【目次】を参照してください。

## ■ DigiOnSound5 LE. について

※収録されているサウンドファイルなどについては、商用目的でない範囲でご利用いただくことができますが、これらのファイルを複製したり、編集・変換したり、使用したりした内容や結果は、商用・非商用を問わず、ソフトウェアの使用が許諾されたお客様以外の第三者に配布・配信したり、放送・公開などをおこなうことはできません。

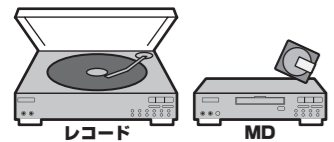
※映像、静止画、音楽などは著作権物として著作権法によって保護されています。市販あるいはレンタルで提供されるビデオ、DVD、CDや、テレビ放送、ラジオ放送などは、個人で楽しむ場合を除き、複製（コピー）または録画、録音することが著作権法によって禁じられています。ご自身のオリジナルではないこうした著作物を、私的利用の範囲を超えてホームページなどに掲載したり、他人に譲渡、販売するなど頒布、配信する場合（改変、編集した場合も同様です）には、著作権者の許諾を得る必要がありますので十分ご注意ください。

## オーディオ機器の接続

本製品には、レコードやMDプレーヤー、ラジカセなど音声出力端子を搭載したオーディオ機器を接続することができます。オーディオ機器との接続は、2種類の方法があります。

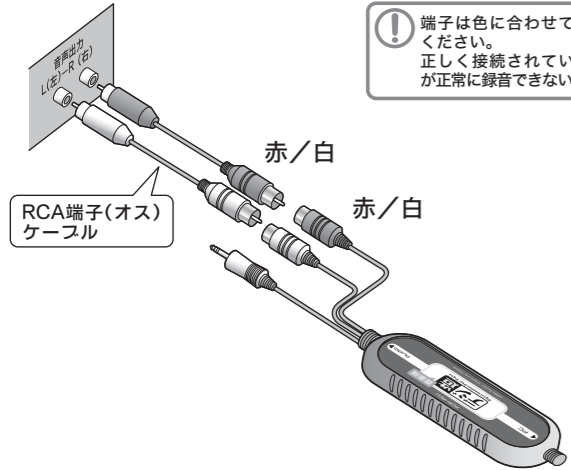


### ■ RCA端子で接続する場合



オーディオ機器の音声出力端子を本製品のRCA端子に接続します。その際、必要に応じて「RCA端子（オス）ケーブル」をご用意ください。

！ 端子は色に合わせて正しく接続してください。正しく接続されていない場合、音声无法正常に録音できない場合があります。

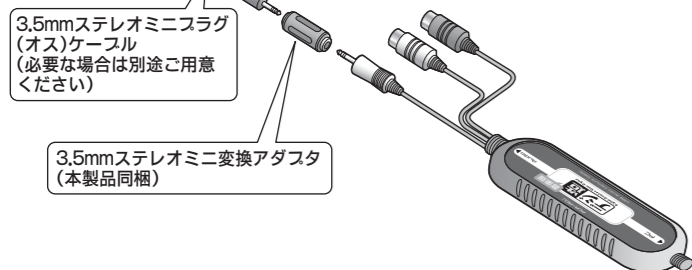


### ■ 3.5mmステレオミニプラグで接続する場合



ラジカセなどのイヤホン端子と本製品の3.5mmステレオミニプラグを接続します。その際、必要に応じて本製品同梱の「3.5mmステレオミニ変換アダプタ」をご利用ください。

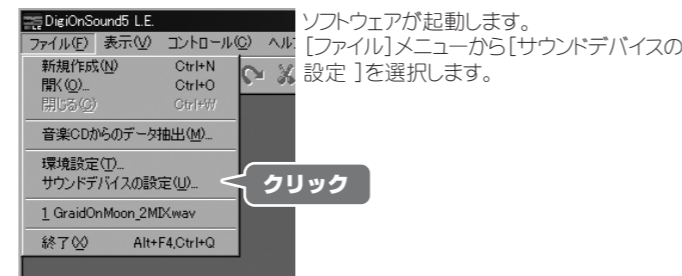
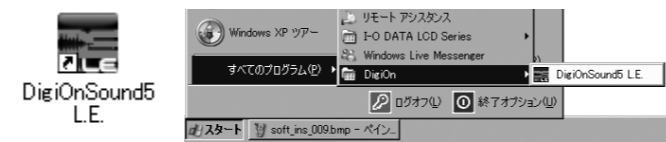
必要に応じて本製品同梱の「3.5mmステレオミニ変換アダプタ」をご利用ください。



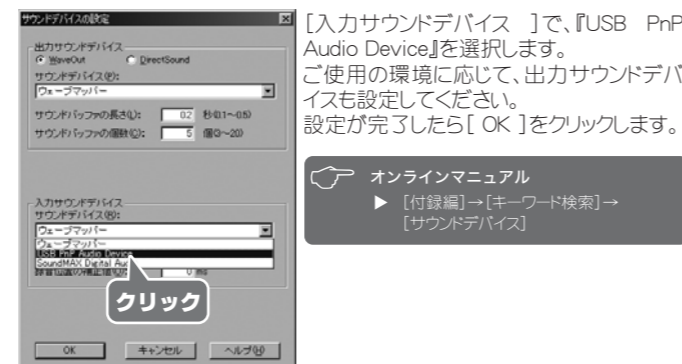
## ソフトウェアの準備

ソフトウェアを使用する前に、ソフトウェアの設定を確認または変更してください。

デスクトップのアイコン、またはスタートメニューから『DigiOnSound5 LE.』を起動します。

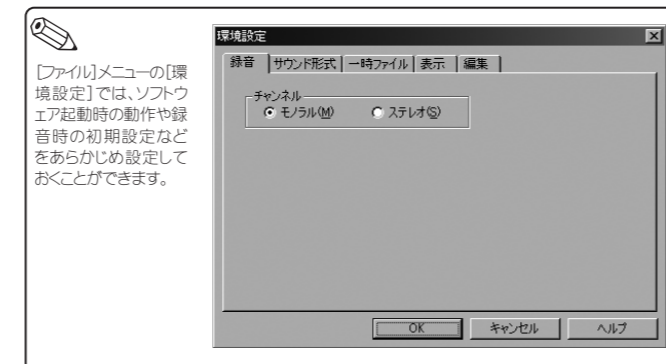


ソフトウェアが起動します。【ファイル】メニューから「サウンドデバイスの設定」を選択します。



【入力サウンドデバイス】で、『USB PnP Audio Device』を選択します。ご使用の環境に応じて、出力サウンドデバイスも設定してください。設定が完了したら【OK】をクリックします。

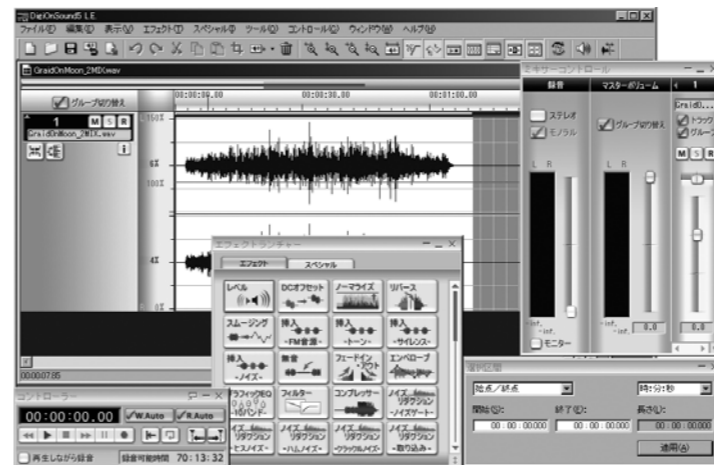
オンラインマニュアル ▶ 【付録編】→【キーワード検索】→【サウンドデバイス】



【ファイル】メニューの【環境設定】では、ソフトウェア起動時の動作や録音時の初期設定などをあらかじめ設定しておくことができます。

## ソフトウェアの画面

ソフトウェアを起動すると、サンプルファイルと共に複数のウィンドウが表示されます。主なウィンドウは、【表示】メニューで表示または非表示することが可能です。



マルチトラックウィンドウ  
波形編集を行うメインウィンドウです。

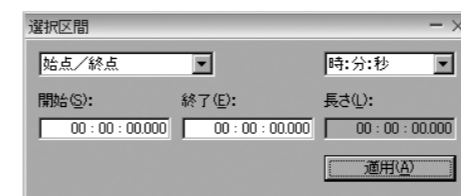


### コントローラー



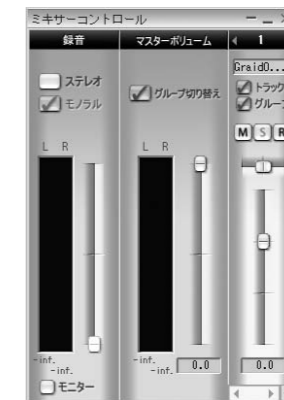
マルチトラックの再生・録音・停止などの操作を行うウィンドウです。

### 範囲選択ウィンドウ



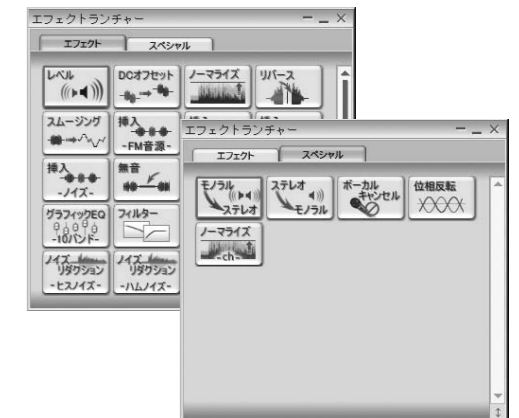
現在の選択範囲または点滅カーソルの位置を表示します。

### ミキサーコントロール



録音・再生のボリューム調整や定位（パン）の設定を行います。

### エフェクトランチャー



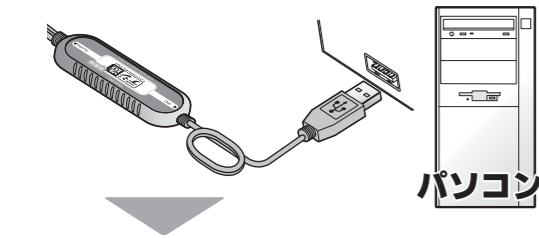
マウスでボタンをクリックするだけで、素早く目的のエフェクトを起動できます。【エフェクト】タブには本ソフトに搭載されているエフェクトが、【スペシャル】タブには、複数のエフェクトを組み合わせないと実現できないような効果をセッティングしています。

各ウィンドウの右上のボタンを操作すると、ウィンドウを閉じたり縮小表示することができます。

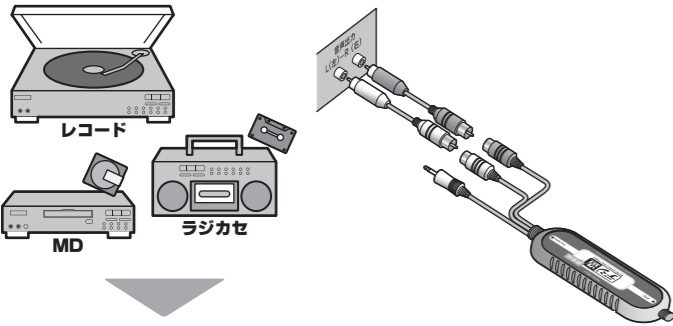
オンラインマニュアル ▶ 【付録編】→【キーワード検索】→【ウィンドウ】

## 音声の録音

パソコンの起動後、本製品のUSBコネクタを、パソコンのUSBポートに接続します。



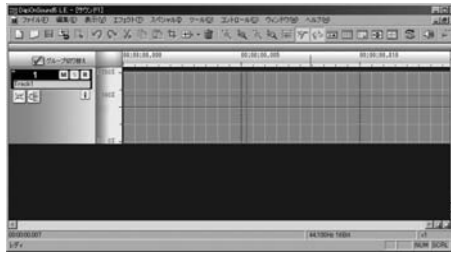
オーディオ機器を本製品に接続します。



デスクトップのアイコン、またはスタートメニューから『DigiOnSound5 L.E.』を起動します。



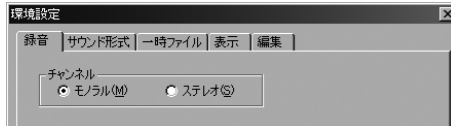
[ファイル]メニューから[新規作成]を選択します。



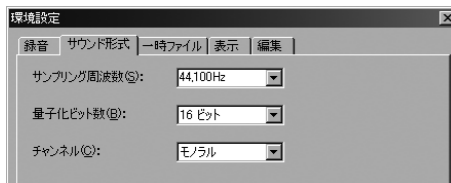
## 環境の設定

[ファイル]メニューの[環境設定]を表示します。録音後および録音元データの設定を行います。ステレオの元データをステレオで録音したい場合、共に「チャンネル」はステレオに変更します。

### 録音の設定



### 元のデータ



✎ 選択できるサンプリング周波数は、2kHz～192kHzです。量子化ビット数は、8、16ビットです。

サンプリング周波数が高いほど高音域の周波数特性は良く、量子化ビット数が高いほどダイナミックレンジは広がります(反面、ファイルサイズは大きくなります)。音楽CDの場合、サンプリング周波数は44.1kHz、量子化ビット数は16ビットです。

高いサンプリング周波数で録音する場合、ファイルのサイズが大きくなり、より多くのディスクスペースが必要となります。保存先のハードディスクの空き容量には十分注意して設定してください。

ファイルのサンプリング周波数は、「サウンド形式」ボタンで変更することも可能です。

オンラインマニュアル ▶ [付録編]→[キーワード検索]→[環境設定]

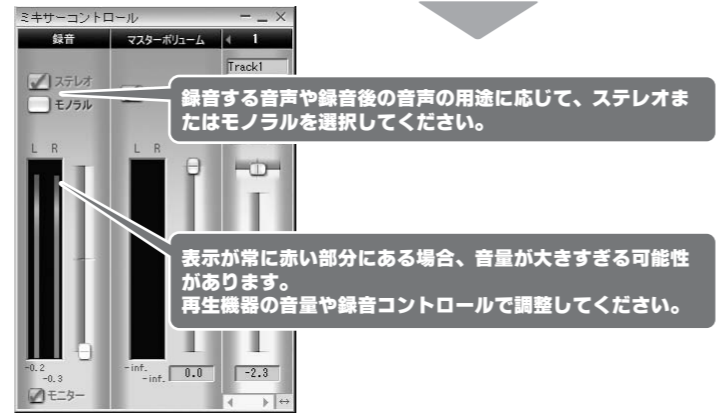
## 音量の設定

[コントロール]メニューの[録音コントロール]または録音コントロールボタンをクリックします。



✎ 録音する際の音量は「再生機器」の音量と「録音コントロール」を合わせて調整してください。

録音する際の音量を設定します。最適な音量かどうかは、ミキサーコントロールウィンドウで確認できます。再生機器で音声を再生した際の、表示を確認してください。



✎ 録音する音声や録音後の音声の用途に応じて、ステレオまたはモノラルを選択してください。

✎ 表示が常に赤い部分にある場合、音量が大きすぎる可能性があります。再生機器の音量や録音コントロールで調整してください。

## 録音

コントローラーの録音ボタンをクリックして、録音スタンバイ状態にします。



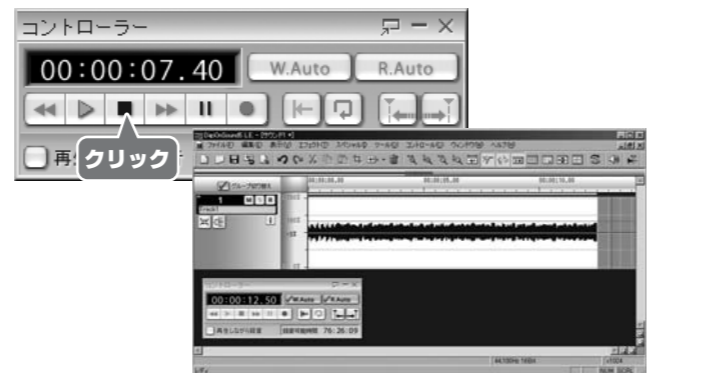
✎ 「録音可能時間」には、現在のファイル形式とハードディスクの空き容量で何分の録音が可能か、参考値が表示されます。

一時停止ボタンをクリックし録音をスタートします。



オーディオ機器で音声を再生します。

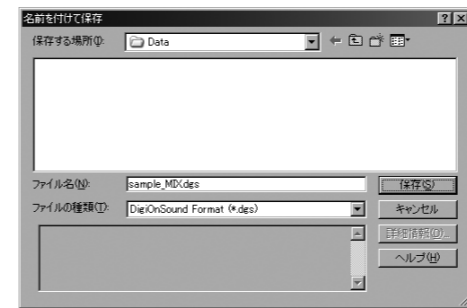
停止する場合は、停止ボタンを押します。



録音されたデータがマルチトラックウィンドウに表示されます。

## ファイルの保存

録音が完了したら[ファイル]→[名前をつけて保存]を選びマルチトラックウィンドウの内容を保存します。ファイルは「dgs」形式で保存されDigiOnSound5でのみ使用できます。

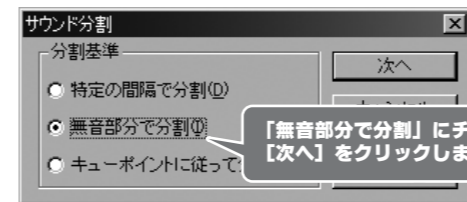


✎ ここでは音源データをDigiOnSound5形式ファイルに一時保存します。MP3などの音楽再生ファイルへの変換は、編集などを行った後に行います。

一度内容を保存した後、再度編集する時は[ファイル]→[開く]で、対象のファイルを選択します。

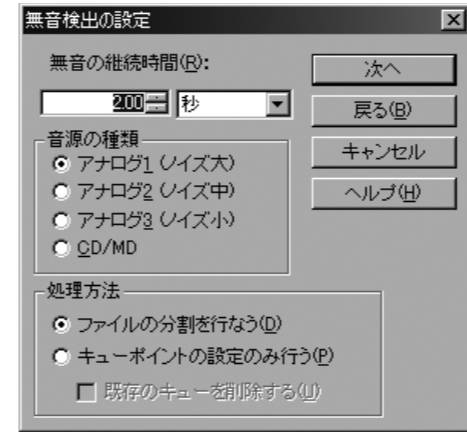
## サウンド分割 (無音検出)

[ツール]→[サウンド分割]を選択します。



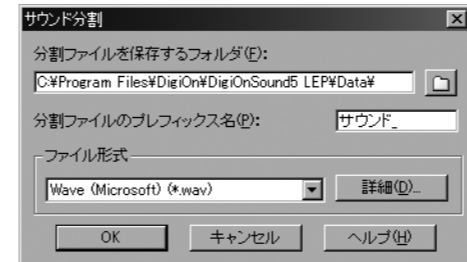
✎ 「無音部分で分割」にチェックを入れて「次へ」をクリックします。

無音検出の設定画面が表示されたら[無音の継続時間][音源の種類][処理方法]を選択し[次へ]をクリックします。



✎ 殆どの場合、標準の設定で自動検出可能ですが、詳細な設定は「ヘルプ」→「目次」→「基本編」→「波形編集」→「サウンドを波形分割する」をご覧ください。

「保存するフォルダ」「ファイル名」「ファイル形式」を設定し[OK]をクリックします。



✎ iPodで聴く場合には「ファイル形式」を「MPEG Audio Layer-3/mp3PRO (\*.mp3)」へ変更する必要があります。

保存する際、PCの環境や録音時間などの関係で保存時間が異なります。

オンラインマニュアル ▶ [付録編]→[キーワード検索]→[サウンド分割機能]

## ノイズ除去機能

ここでは主なノイズの種類と除去の方法について解説します。編集するファイルを表示して、「エフェクト」→「ノイズリダクション」から選択します。

オンラインマニュアル ▶ 「目次」→「付録編」→「キーワード検索」→「ノイズ……」

✎ ノイズ除去の際、効果を大きく設定すると、本来の音の成分を損なって音質が変化する場合があります。ノイズ除去を実行する前に「プレビュー」をクリックすると音質の確認が可能です。(音質の確認には設定してから2～3秒程度必要です。)

## ヒスノイズ



カセットテープなどのアナログソースを再生する時に、無音部分で発生する「サー」「シー」といったノイズを除去するエフェクトです。

## ハムノイズ



再生機器の電源などから発生する「ブーン」というような低周波成分を持ったハムノイズを除去するエフェクトです。

## クラックルノイズ



古いレコードなどにつきもの、クラックルノイズ(プチノイズ)を除去するエフェクトです。

## 音声ファイルの書き出し

編集したデータを[ファイル]→[書き出し]で音声ファイルに書き出します。iPodで聴く場合には、「ファイル形式」を「MPEG Audio Layer-3/mp3PRO (\*.mp3)」へ変更する必要があります。



✎ ファイル形式を選択して「保存」をクリック

## 便利な使い方

DigiOnSound5 L.E.の[ヘルプ]→[目次]から、その他機能の詳細な設定方法をご覧ください。